

---

# 思い通り

聖流

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

思い通り

### 【著者名】

Z7300C

聖流

### 【あらすじ】

普通の小学生、遠藤光。道に迷い、行き着いた場所、『思い通り』何でも思い通りのことができる通り。笑いあり、冒険ありの話。

## プロローグ

4時間目。そろそろお腹が空ってきたついでに、普通ならの～んびり授業を受けるんだけど、今日は違う。なぜなら、国語の教科書忘れた……おまけに、まる読み。確実に、あたしのトロに周つてくる。

あたしが机の中を「onsoonso」探してゐたりに、本読みの番が近づいてきた。

余計に焦るあたし。ヤバイよ……どーしよ……

ついに、あたしの番が回ってきた。なかなか読まないあたしに、先生が「どうしましたか？」と聞く。決して怖い先生、っていう訳じゃないけど、何か言いにくい……

「えっと……教科書、忘れました……」弱々しく言ってみた。だけど、やつぱりダメだった。その先生は少し怒ったようだ、

「どうしてですか？」と聞いた。

「昨日、ランドセルに入れるのを忘れました……」

「どうして気づかなかつたんですか？」

はあ？？この先生、頭ワリー。普通、分かるだろ。

「確認しませんでした。」

「そうです。甘えたことをしないように。では、隣の人見せてもらひなさい。」

最悪。どうせなら、パツと教科書が現れてくれたらいいのに……

これつて、普通に思つひよりでしょ？だけど、あたし、このとき心の

中では「そんなんあるわけない」って思つてたよ。

だって出てきたらフツーにビックリするし、現実にそんなんことが起きたら、ヤバイじゃん。

でもね、それが普通に叶つちゃうトコつてあるの。

「冗談だろ、つて思つた人いるよね? あたしだって、最初はそつ思つてたよ。でも・・・・変わつたの。『思い通り』つていうトコに行つてから

## 第1話

あ～あ・・・・・今日は、ついてない。つて言つても、教科書忘れただけだけど。

帰り道、ぼんやりと歩いていたあたしは、誰か知らない人に話しかけられて、我に返つた。

「ねえ、山田つていう人の家、知らない??」

「いえ、知りませんけど・・・・・」

「そつか・・・・君、何年生?」

「6年生ですけど・・・・・」

「へ～え。胸、大きいね」

何言つてんの、この人。大体『胸大きい』つて・・・・・

胸を触つてくるので、気持ち悪くなり、あたしは帰ろうとした。

でも、相手は大人の男の人。

子供が勝てるわけも無く、追いかけてきた。

怖くなつて、あたしは走り出した。

でも、頭の中は真つ白で、アイツに追いつかれることだけを恐れて、ただ必死に走つた。

・・・・・・・はあ・・・・・はあ・・・・・疲れた・・・・・

つていうか、「ゴビゴビ? ?

気が付くと、全く知らないけど、でもたくさんの人に行き交う、賑やかな通りにいた。

とりあえず、歩いてみた。

でも、ここどこだろ・・・? 地図とか無いかな・・・・・

そう思つてキヨロキヨロまわりを見てみると、さつきは無かつたはずなのに、ぱつと地図が現れた。

地図を見てみた。そこには【思い通り案内板】と書かれていて、そこにはいろいろな店の名前が書かれてあった。

そこまでは、普通の案内板と同じ。でも、あたしは見つけた。普通ではあり得ない言葉を。

【これは、あくまで案内です。実際には在る店と無い店があります。

】これって、どういう意味？

「どうしたらいいのか、全く分からなく、困つていると長い髪のあたしと同じくらいの年の子を見た。見覚えがあるから、近づいて話しかけてみた。

「はあ・・・はあ・・・ね、ねえ・・・」

走つたせいで上手く言葉が出なかつた。

でも、彼女はゆっくりと振り返つた。

そして、少し驚いたような顔をした。でも、あたしが思つて、ほとんど顔に変化が無かつた。

「あ、柴崎美夏・・・」

見覚えがあるな、とは思つたけど、まさか美夏だとは思わなかつたから、内心ビックリした。

「どうだけど、何か用?」ていうか、どうしてあなたがココにいるの??

「え・・・迷い込んだ」さすがに、胸をさわられて逃げてきた、何で言えない。

「どうやって入つたの?」

「分かんない。気がついたらココにいた。ていうか、何でさつきから質問ばっかなの?」

「あなたがココに居るのは、変だから。」

急に、意味の分からないうことを言い出した。

そもそも、あたしは美夏とはあまり喋つたことが無い。「美夏」何て言つて呼び捨てにしてるけど、それは流れで普通になるものだし。

「あのね、ココは普通の人は入れないの。特に、あなたみたいな人は。」

「え？ それ、どういうこと？」

「あたしは、あなたの家庭事情とかよく知らないけど、でも、あなたは1人じゃないでしょ？ 学校とか、家とかで。」

あたしは考えてみた。

確かに、1人じゃないかもしれない。

でも、何か、上辺だけの友達、つてカンジがする。

家でも、確かに1人ではない。ただ、会話とか少ないし、最近お母さんとお姉ちゃん、ケンカばつがだし・・

・だから、あたしは、あまり家族と話すコトが少なくなつた。イロイロ考えて、あたしの答えは「分からぬ」だった。

そのことを美夏に言つと、何も言わなかつた。

あたしと美夏の間には、何も無い時間が流れる。

「とりあえず、役所に行く。そこで、出口を探してもらうの。」  
その言葉、特に「出口を探してもらう」という言葉に、あたしは反応した。

「役所に行くのは賛成だけど、出口を探してもらうなんてヤダ！！  
まだ居たい！」

「ダメ。そんなことしてたら、光<sup>ひかり</sup>、消えてしまうの。」

・・・・え・・・・？『消える』？あたしが？そんなの、有り得  
ないって・・・・

「消えるつじどうこの「コト」？」

「光はまだこの世界に慣れてない。だから、ココに居られる時間が  
限られている。その時間は【1時間】」

1時間・・・・あたしが思い通りに来てから今までで、大体10  
分前後・・・・

残り時間【50分】

【50分】つて、長いの？短いの？

そうやつて悩んでる間に、美夏の話は続く。

「1時間を上手く使って、自分の思い通りの結果を生むか、それと  
も下手に使って自分の思いとは全く逆の結果になるかは、光しだい。

「

結局、自分で何とかするしかないんだ・・・

だつて、あたしの人生なんだもん。

「そつか。役所行く。」

あたしがいつづつと、ただ頷いて、黙つて歩き出した。

「そういうえば、美夏つて家どこ？また遊びに行きたいし・・・・・

「私の家は思い通りにあるから、もう来ることはできない。ただ、

ここに住人になれば、自由に入り出しができる。」

「つそ！あたし、ここに住みたい！」

あまりにも幼くて、単純な返答だった。それで、美夏が納得するわけない。

「ここに住人になるには独りじやなきや住めない」

え・・・・・じゃあ、美夏は独りなの？

## 第4話（前書き）

やつと口口まで来ました・・・  
光の同級生、美夏。彼女がどうして思に通りに頑るのか、その理由  
がちょっとだけ明らかになります。

あたしは美夏のコトはよく知らない。

でも、両親が事故で亡くなつたのは知つてる。

だけど、その後美夏は親戚の家に預けられて、それでこの学校に来た。

だから、別に独りじやないつて思つてた。

「美夏のお父さんとお母さんが死んじやつたのは知つてるけど、その後親戚の家に預けられたんでしょう？」

「そう。」

「だつたら、別に独りじやないじやん。」

「預けられただけ。親戚の叔父さんと叔母さんは、何かつて言うと私に当たつてくる。それに、あの2人には今年受験の子供がいて、私にかまつてられない。」

そこまで全然知らなくて、ずーっと『美夏は、両親がいないうけど親戚の家で楽しくやつてる』って思つてた。

ホントは全然楽しくなんて無いはずなのに

だから、美夏はココに来れたんだ・・・

だつたら、あたしも居たい。無理矢理独りになつてでもいいからココに居たい。

「美夏ー!どうやつたら、ココに居られるの?」

「そんなバカなコト言つてないで、早く役所に行って帰る手配してもらわなきや。」

なんと!ー!話をすらしましたよ、この人ー!ー!

思い通りを歩いてみて思つたんだけど、ここのてスゴイ・・・

水が飲みたいなつて思つたら、ミネラルウォーターのペットボトルがいつの間にかあたしの手にあつた。

それだけじゃない。人々が行き交う賑やかな場所に行くと、色んな

とこで、色んな物がイキナリ現れてる。そのことを美夏に話すと、「当たり前。ココはそういう場所なんだから。」って言われた。あたし、このとき、何言つてるのか全然理解できなかつた。でも、あの案内板・・・アレに、ちゃんと書いてあつたんだ・・・・・役所は、レンガ造りの洋風な建物で、すごく大きかつた。建物の周りには、樹がたくさん立つていた。

役所の中は、たくさんの人。ホールと思われる場所の真ん中には、これまた大きな噴水。

噴水のある場所から真っ直ぐ行くと、大きな扉がずらりと並んでいた。扉には看板があり、看板には『 住民課 住民登録・住所登録 結婚・離婚の方』とか、『 組合課 新団体（組合）設立・団体の削除・団体合併の方』、『 医療課 病院検索または、ご案内の方』などいろんな看板がある。

でも、美夏はそんなものには目もくれず、奥の方へと進んだ。着いた場所、そこはホールとは違つて、人も少なく、何かちょっと暗い、不気味な場所。そして、看板には『 修正課 思い通り追放・現界に帰還』と書いてある。

言つとくけど、あたし、言つほどバカじやないよ。この看板の意味ぐらい、理解できる・・・・・あたし、元の世界に戻っちゃう・・・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7300c/>

---

思い通り

2010年10月28日13時38分発行